

方針の柱(案)における検討すべき事項について

●創造性について

- これまでの委員会において、体験の機会の必要性や体験から創造へのプロセスが重要であるといったお話しはいただきました。ただ、事務局としても、漠然と創造性を育むことが良いことであるとは考えてはいるものの、具体的に、なぜ創造性が必要なのか？という問いに対して、明確な解を出せていない状況です。
- そこで、みなさんになぜ創造性を育むことが重要なのか？という点について議論していただきたいと考えています。そこに、行政が文化政策に取り組む意義もあると思いますし、そもそも文化が必要なのかという議論にもつながっていくものと考えています。
- 現在、事務局では、創造性が高めることが、単に何かをつくることということだけではなく、多様なものを受け入れることにもつながり、そういった市民が多くなることにより、まちとしても多様なものを受け入れ、まちの魅力が高まることにつながると考えています。

●文化がまちにもたらす効果の武蔵野市における活用について

- 委員会では、鑑賞や体験から創造へのプロセスなど個人の文化について、議論を重ねてきました。事務局としては、個人の楽しみや生きがいという側面だけでなく、文化が他の分野(環境、教育、福祉、子育て、コミュニティ、観光、まちづくり等)にもたらす効果についても書き込んでいきたいと考えています。
- これまでの委員会の中でも、体験・創造の場における交流から生まれるコミュニティについての議論はありましたが、実際に、武蔵野市において文化をどのように活用することができるかということについて議論していただきたいと考えています。

●文化の中間支援機能を担う人材の具体的な役割について

- 委員会の中では、市でアーティストの育成することは難しいので、アーティストをマネジメント・育成できる人材の発掘・育成が必要ではないかとお話しがありました。そして、その人もしくは団体が、活動している各主体同士をつないでいくことについても議論されてきました。
- では、そういった活動をする人・団体がどのような支援・機能を有し、なおかつその人・団体がいることによって、市民にとってどのような効果があるのかということについて考えていただきたい。
- 事務局では、文化をつないでいく担い手とは、専門的なスキルを持った方だけでなく、まちづくり等の活動の中から、誰でもが参加できるものではないかと考えています。